

## 令和4年度 第2回苫小牧市スポーツ推進審議会結果報告書

【日時】 令和5年3月22日（水）18時00分～19時15分

【場所】 市役所本庁舎9階 議会大会議室

### 【出席】

▽苫小牧市スポーツ推進審議会委員 9名（12名中）

本間会長、中村（峰）副会長、阿部委員、石田委員、小松委員、澤井委員、鈴木委員、中村（誠）委員、山根委員

### ▼事務局（市）

まちづくり推進室 : 柴田室長

スポーツ都市推進課 : 畠山課長、榊田課長補佐、奥井主査、寛那見主査、大村主事、丸谷主事、佐藤主事、脇坂主事、高家主事、寺谷主事

~~~~議事内容（審議経過・意見・質問等）~~~~

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 議事（進行：本間会長）

※以下の質疑・意見については、▽は委員発言、▼は事務局発言。

### (1) 苫小牧市スポーツ推進計画について

- ① 令和4年度事業実績
- ② 令和5年度事業予定

### ※ 事務局から説明

▽山根委員

令和4年度の全国高等学校選抜アイスホッケー大会では、ベンチでの声出し等を制限していたが、令和5年度では原則声出しありでやっていくのか。

▼事務局

資料に掲載してある令和4年度の全国高等学校選抜アイスホッケー大会の検証結果は、感染したチーム関係者にアンケートを行い、実態としてもっとどうやったらよいのか等を調査したものである。今後、各アイスホッケー連盟や北海道、国立感染症研究所等の意見も踏まえ考える必要がある。

既にマスク無しで観戦しているスポーツ大会もあるが、本大会は2年前に150人の感染者を出している。コロナが5類に移行される中で、どこまで対策をやるべきなのか、今一度考える必要はある。

▽中村（峰）委員

令和4年度の全国高等学校アイスホッケー大会の補助金額は900万円で、令和5年度は500万円と補助金額が減っているが、コロナ対策に関係することか。

▼事務局

令和4年度はコロナ対策として、関係者全員に検査を実施することとし、別途市の方で補正予算700万円を措置した。

令和5年度はPCR検査、抗原検査のコロナ対策費用は含めていない。今後、必要となるのであれば、別途協議はしていく。

▽本間委員長

今後、インターハイや国民スポーツ大会など大きな大会が開催されるが、感染対策等については、引き続き関係部署と連携していくことで良いのか。

▼事務局

その通りで考えている。参考として、P11の国民スポーツ大会冬季大会についてであるが、今年1月に開催された八戸大会のコロナ検査については、各都道府県で実施することとなっており、八戸入りしてからは健康チェックシートの提出と体温の確認、手指消毒という対策であった。今後、コロナが5類に移行されることに伴い、どのように対策をしていくか考えていくことになる。

また、10月には鹿児島で秋の国民スポーツ大会が開催されるので、参考にしていきたい。

#### ▽本間委員長

以前は、チームに1人でもコロナ感染者が発生したら、チーム全体が出場禁止となったが、現在は、コロナ感染した選手のみ出場禁止になるなど、緩和されてきている。八戸大会もその方針で行ったと聞いていたが。

#### ▼事務局

概ねそのような方針であったが、厳密に言えば、聞き取りをし、濃厚接触者に該当する等であればその選手も出場対象外としていた。ただ、現在は緩和されてきており、発熱者や検査で陽性となった選手だけを外し、試合を実施している。

#### ▽鈴木委員

今の感染症対策というのは、夏のアイスホッケー大会の主管は苫小牧市で、インターハイの主管は高体連、国民スポーツ大会の主管は日本スポーツ協会であるが、それらの大会の感染症対策は担当主管ごとに決定するのか、それとも苫小牧市が主体となって決定するのか。

#### ▼事務局

国民スポーツ大会については、日本スポーツ協会の方では、対策は自治体に任せ、連盟や競技団体の方針に従うということになるが、開催地は苫小牧市であるが、基本的には北海道での開催ということでもあるので、北海道、各連盟や競技団体、本市実行委員会と協議しながら進めていく。

インターハイについては、日本スポーツ協会から日本ソフトテニス連盟や日本テニス連盟へ感染対策を考えるようになっている。種目によって、屋内や屋外と異なるため、若干対策は異なる部分があるが、競技団体が感染対策を作成していく。今回のインターハイについては高体連が主体となっていくが、国の緩和によって感染対策がどのように変わっていくのか高体連や実行委員会と相談しながら進めていく。また、北海道大会となっているため北海道と準備しながら進めていく。

#### ▽鈴木委員

主体となってやるというよりは、国民スポーツ大会とインターハイは準じて行うというイメージ。

全国高等学校アイスホッケー大会は、苫小牧市が考えなければならないということの良いのか。

▼事務局

主管が苫小牧市のため、基本的にはその通りである。

(2) 苫小牧市スポーツ施設整備計画について

① 整備計画の進捗状況

ア 令和4年度実施整備事業

イ 令和5年度予定事業

② 苫小牧市緑ヶ丘公園陸上競技場ネーミングライツ

※ 事務局から説明

▽本間委員長

新総合体育館は、建替えではなく新たな場所に建てるということであれば、現在の総合体育館は休館するということはないということの良いのか。

また、新総合体育館の建設をしながら現在の総合体育館を運営しながら進めていくということが良いのか。

▼事務局

通常、同じ場所に建てるとなると2、3年は使えなくなることになる。そのようなことを防ぐためにも別の場所に建設する予定。

▽本間委員長

矢代スポーツセンターの料金設定は、平日や休日の料金が高くなるということはないか。

▼事務局

料金は一定であり、総合体育館等の料金システムに合わせている。

▽阿部委員

新総合体育館の建設候補地は検討中ということだが、現時点の言える範囲で教えてもらうことは可能か。

また、新しく総合体育館が建設されたとき、現在の総合体育館の活用方法はあるのか、又は取り壊すことになるのか。

#### ▼事務局

建設候補地については、議会でも説明をさせていただいているが、緑ヶ丘公園を一つの候補地としており、東西に長い街という点から、中心部という考え方を示している。ただ、中心部となると建設場所が限られてくるが、東西どちらかに寄ることがないようにしていく。

現在の総合体育館は築年数が50年を経過している。公共施設は人口比に合わせてコントロールをしなければならないとされているため、新総合体育館建設後は、残すことにはならないのではないかと考えている。

#### ▽中村（誠）委員

新総合体育館については、これから基本方針を決めるということだが、現在の総合体育館は基本的に健常者スポーツの想定となっており、パラスポーツを行う時だけ場所を開放しているスタンスである。新総合体育館ではパラスポーツも想定して、健常者と一緒に行うことができるように計画して欲しい。

#### ▼事務局

パラスポーツについては、ここ数年ご協力を頂いている車いすバスケットボールを総合体育館で行っている。福祉ふれあいセンターで行う方が設備も整っており、会場も確保しやすく、集まりやすいが、多くの人の目に触れないということが欠点と考えている。ただ、基本的にパラスポーツを実施できる施設は、現状、福祉ふれあいセンターしかないといったところもある。そのような中で、少しでも多くの方に見ていただくため、総合体育館でも車いすバスケットボールを始めた。今後、ボッチャやパラスポーツのサークルもあるので関係団体とご相談させていただきたいと考えている。

新総合体育館ではトイレ等の設備もバリアフリーで進めていく予定であり、今後、パラスポーツの利用環境等についても相談する機会はあると考えている。

#### ▽阿部委員

現在の総合体育館は、アリーナのバスケットコート3面分が一面にあるというものだが、最近の体育館だと2面+サブアリーナ1面という体育館が色々な地域でよく見受けられ、人口減少の要因もあると思う。私個人としては、最近、建設された室蘭市の総合体育館や、帯広市の総合体育館を見たこともあったが、苫小牧市としては帯広市の総合体育館程度の規模を想定しているのか。

#### ▼事務局

現時点では、帯広市の規模を想定しており、メインアリーナが3面、サブアリーナが1面の予定。競技団体からは、現在の総合体育館はバスケットコートが3面あるが、トーナメントの進み方が偏ってしまうとの意見もある。そのようなことから偶数の面数が欲しいとの声があったため、帯広市の規模も検討している。

#### ▼事務局

先ほど、建設候補地については、緑ヶ丘公園をスポーツ施設集約の観点から、候補地の一つとして検討はしているが、改めて、市全体のまちづくり、賑わい創出の観点も含め、令和5年度中に市の考えを示したい。また、施設規模ということでパラスポーツやコートの件については、帯広市規模で検討し、メインコート3面、サブアリーナ1面と説明をさせていただいたが、現在、市民文化ホールで運営費を含め数百億円の経費がかかり、現在は、建設費が1.5倍程度に高騰している状況。

今後、総合体育館を建設する際、更に建設費が高騰している可能性もあるので、市の財政シミュレーションを行い、将来の負担を考えて方向性を決め、スポーツ推進審議会においても意見を聞きながら関係団体と協議をしていきたい。

#### ▽中村（峰）委員

総合体育館の建設費用も含め、市の財政状況については理解できるが、建設後は、何十年にもわたって活用するのであれば、極端に建設費用を削減するといったことは、あまり考えてもらいたくない。スポーツ都市としての意義も考える必要があると思う。確かに、建設費の高騰等も理解できるが、慎重に決めていただきたい。

#### ▼事務局

スポーツ振興を進めていく上では、しっかりと設備が整った施設を造りたいという考えがある。ただ、苫小牧市も今後人口減少により税収の減少も見込まれるので、その狭間でしっかりと協議していきたい。

#### ▽石田委員

2点ほど意見として。

1つ目は、部活動の地域移行も踏まえての話なのだが、放課後、ウトナイ中学校の生徒が陸上競技をするため、緑ヶ丘公園陸上競技場に行くのだが、時間がかかる。東中学校や開成中学校の生徒であれば、利用に便利だが、同じ市民でも格差がある。交通の利便性があるかといわれる

と緑ヶ丘公園陸上競技場の前にバスが止まるわけでもない。新総合体育館の候補地の一つとして緑ヶ丘公園を検討されているが、サッカー場や陸上競技場、テニスコート等を東西に建てれば子供たちの競技人口離れの対策にもつながるのではないか。例として、陸上競技で言えば、隣町の厚真町は成績が良い。この先の20年、30年後を考えると苫小牧のまちづくり的にどうかと思ったところである。

2つ目は、現在行われているWBCベースボールクラシックを見て、宮崎県のキャンプ合宿が良いと思った。苫小牧は気候や交通の便が非常に良く、これから総合体育館ができて施設が充実する。課題として、宿泊施設が不足しており、これらを一体として考えた方が良いのではないかと思う。今後、スポーツ観光都市として、野球やアイスホッケーのみならず、夏場のスポーツといえは苫小牧と言われるように、JOCや国会議員の橋本聖子氏、堀井学氏と協力し、一極集中した東京ではなく、自然豊かな苫小牧で調整ができるように、20年、30年後を見据えて考えて欲しい。

#### ▼事務局

1つ目の東西に施設があったらどうかということだが、やはり施設の建設や維持には経費がかかる。当然、その都度、改修費用等のランニングコストが多く発生する。横長の街なので両サイドの方には、ご不便をかける部分はあると思っているが、他市の状況として、帯広市も総合体育館以外が郊外に建設されており、不便な状況があると思う。その街の形状によって街づくりの配置を考える必要はあると考えており、施設を利用される方々からも家の近くに施設が欲しいという声を頂くことはあるが、その反面、人口減少も進んでおり、また、施設維持管理費用の負担といった点では、どんどん大きくなっていくところを理解していただきたい。

2つ目のスポーツ合宿等についてであるが、観光都市苫小牧としてスポーツ合宿の誘致や大会の誘致を行っており、インターハイの開催、国民スポーツ大会の開催の誘致を行っている。夏場ということでの意見であるが、以前に東京オリンピック・パラリンピックの日本代表チームの合宿があった。その際、全国からパラアスリートの選手が来苫し、苫小牧で陸上競技場を使用し合宿を行った。7月の合宿であったが、選手の皆さんは、「寒いですが、その分練習ができる環境だよ」と言っていた。また、交通の利便性が非常に良いとのことだった。特にパラアスリートは様々な障がいがあるため、一つの空港に集り、貸切バスで一緒に行動できるといった点で、苫小牧は非常に立地も良く、練習環境も良いという評価を頂いている。それも有り、昨年、陸上の東京オリンピック日本

代表の山縣選手に合宿をしていただいた。

千歳市では観光とスポーツは一緒という考えもあるが、本市も来年度から「MICE」という視点から、海外の方の会議等で苫小牧に来てもらう等、少しでも観光都市という視点を加えながら取組みを進めるところである。ただ、ご指摘のとおり宿泊施設については、特に夏場の宿泊ができないという状況であり、市で建てる考えはなく、民間企業についても少子高齢化等を見据えた状態であり、新規参入がない状況である。

そのような中ではあるが、気候や交通の利便性を活用し、引き続き取り組んでいきたい。

#### 4 その他

#### 5 閉会